Active School Kai Project　令和6年度プロジェクト計画書（報告書）

学校番号	34	学校名	中央高校（通）		
全・定・通	通	学年	1	在籍生徒数	97　名

教育目標 （学力に関するもの）	自らを尊び、社会性を育み、社会的・職業的自立をめざす （Choハーモニックプラン）
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	・学ぶ楽しさ、わかる喜びを知り、自らの生き方や在り方を問い続ける ・社会性を身につけ、自立と自律を目指す ・自らを尊び、他者を尊び、地域を尊ぶ

各教科の取組

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	社会生活で用いる基本的な言葉に関する知識と情報の扱い方を身につけ、言葉を使って認識や思考ができる。	4.3	4.3	基本的な言葉に関する知識や情報の扱い方について、レポート課題では比較的高評価であるが、定期試験や日常生活での定着については生徒による差が大きく、今後の課題である。
	社会生活の中で、他者と言葉を通して互いに考えを伝え合い、論理的に思考したり、想像しようとする。	4.2	4.2	論理的な思考や想像を評価するレポート課題について、記述や発表の増加を負担に感じる生徒とそうでない生徒との差が開いており、その対応が難しく、今後の課題である。
	言葉を用いて考えたり伝えたりすることの必要性を認識するとともに、適切な言葉遣いをする能力を高め、自らの国語力を向上させようとする。	4.3	4.3	自らの国語力を向上させる必要性については生徒も認識しているが、読書や新聞を読むことにはなかなかつながっておらず、その対応が課題である。
地公	地理歴史や社会、思想等について、知識を持ち、資料を活用する技能を身につけようとする。	3.9	4.2	レポートや授業において、基礎的な「知識・技能」の問題を多く設定したが、現在起きている事象と関連付けて考えられるような授業を行うことが課題である。
	歴史、地理、社会等の基礎的な問題について、自ら考え思考し表現することができる。	3.9	4.1	レポートの中に思考・判断・表現を求める内容を入れた成果が出ている面もある。次年度はさらに思考する力を養えるよう精選する。
	社会について興味関心を持ち、主体的に社会参加する意欲を高めようとする。	3.9	4.2	レポートや授業において、主体的に学ぶ態度を求める内容を取り入れることで、国際社会の一員である意識を持たせることが課題である。
数学	数や式の性質や簡単な規則を理解して用いることができる。	3.8	4	基礎的な知識・技能について、教育課程や3観点別評価を意識してレポートを作成した成果が出ている。さらに取り組みを進めたい。
	公式やグラフ等の意味を理解し、問題の解法に活用しようとすることができる。	3.8	4	公式活用の判断・グラフの活用など、3観点別評価を意識してレポートを作成した成果が出ている。さらに取り組みを進めたい。
	身につけた知識を活用して応用問題の解答を導こうとする。	3.9	4	難易度の高い問題や応用問題にも主体的に取り組むように意識してレポートを作成した成果が出ている。さらに取り組みを進めたい。
理科	自然の事物・現象に対する知識を得ようとし、ICT機器などさまざまな資料を活用しようとする。	4	3.9	レポートにもテストにも3観点別の問題を設定したが、レポートでは高評価でもテスト時には同様の問題が解けず、相関性が見られない場合がある。
	実験・観察の目的を理解し、自らの考えを表現でき、自然の事物・現象を科学的に探究できる。	4.1	4.1	限られたスクーリングの時間内では実験・観察を十分に行うことは困難だが、思考・判断・表現の方法を工夫し、評価に結び付けたい。
	自然の事物・現象に関心を持ち、日常生活で進んで活用しようとする。	4.2	4.1	レポートや授業等で、主体的に学ぶ姿勢を評価する課題を出し、課題の取り組みに対する評価の方法について、継続的に検討していきたい。
英語	基礎的基本的な語彙・表現・文法等の知識技能の定着させようとする。	4.1	4.4	基礎基本的な知識・技能に加え、レポートに思考・判断・表現、主体的学習に係る内容を入れたり、スクーリング時にALTとの時間を増やすなどした。次年度以降も継続することが課題である。
	目的・場面・状況に応じて、簡単な英文を的確に読み取ったり、読んだり聞いたりして得られた情報に基づき自分の考えや気持ちを表現することができる。	4	4.5	自分の考えや気持ちを表現させるためのレポートやスクーリングのあり方をさらに改善していきたい。
	主体的に自分の考えを深め、短文の英語で記述したり発表することができる。	3.9	4.2	英語のすべての科目で新学力観に基づいたレポート、スクーリング、テストを作ることができたので、今後も発展させていきたい。
芸術	芸術に関する知識を得るとともに、鑑賞したり製作したりする技能を培う。	4.2	4.5	必履修科目のため1年次生に履修させたいが、単位未修得の過年度生が多く制限があることが課題。これらの生徒は出席常でないため知識も技能も未熟である。
	芸術について思考し、作品やその他によって表現したり発表したりする重要性を理解できる。	4.3	4.5	音楽・美術・書道の選択制のため、作品制作への興味や表現・工夫などは取り組みやすいと思われる。作品の難易度が課題である。
	芸術への興味関心を高め、生涯を通じて芸術的活動を行う重要性を理解できる。	4.5	4.6	取り組む意欲の差により作品の制作時間に大きな差があり、その差が評価の差に直結する。作品を再提出させる基準が課題である。
家庭	生活や産業について基礎的な知識を得て、関連する技術を身に付けようとする。	4	5	レポートに「知識・技能」の習得を目標とした問題を設定したが、学習への取り組みを通して、自身の生活に引き寄せてとらえるよう促していきたい。
	生活や産業について、自ら課題を発見し、解決しようとする力を培う。	4	5	「発展的な課題（ホームプロジェクト）」への取り組みを通して、自身の生活状況の課題を把握し、改善していく意識をもてるような指導をしていきたい。
	生活の質の向上を図り、主体的協働的に家庭や地域社会とかかわろうとする。	4	5	学習を通して自己理解を促すとともに、家族や他者、さらには社会との関りについても認識できるように、指導の工夫をしていきたい。
保体	各種目の基礎的、基本的な知識・技能を身につけようと取り組むことができる。	4.4	4.2	レポートやスクーリングで各種目の基礎的、基本的な知識・技能を問い、意識して活動できるように、今後もさらに改善したい。
	球技で自己に適した「する、みる、支える、知る」など、生涯にわたって楽しもうとする。	4.3	4.3	レポートやスクーリングで自己に適した球技に対し思考・判断・表現させることで、生涯にわたって球技などを楽しませるように、今後もさらに改善したい。
	球技の学習に主体的に取り組み、健康・安全を確保して参加することができる。	4.3	4.3	レポートに主体的学習に取り組むための欄をつくることで、集団で活動ができるように今後もさらに改善したい。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報	基礎的な情報処理の知識を身に付け、プログラミング等の技能を身に付ける。	3.5	4.4	本来は2年次において履修することが標準の科目である。単位制のため個別に事情のある生徒が少数受講しており、評価結果には偏重がある。少数でも個々に応じた指導が課題である。
	情報機器を活用し、プログラミング的発想で思考判断し表現しようとする。	4	4.4	同上
	情報社会でリテラシーを身に付け主体的に生きていく意識を持つことができる。	3.5	4.4	同上
商業	ビジネスに関する基礎的な知識や計算等に関する技能を身に付ける。	5	5	本来は4年次において履修することが標準の科目である。単位制のため個別に事情のある生徒が少数受講しており、評価結果には偏重がある。少数でも個々に応じた指導が課題である。
	ビジネスや商業において主体的に思考し、判断することができる。	5	5	同上
	職業人としての人間性を育み、ビジネスに創造的に関わろうとする基盤をつくる。	5	5	同上
総探	様々な課題の解決に必要な知識や技術を身につける重要性を理解している。	―	―	1年次に履修が望ましい「Step1」の2科目を、重要度の高い1科目に編成し直した。これで問題があれば、次年度は再検討する。
	社会一般の情報を正しく整理分析し、表現する重要性を理解している。	―	―	「step1」は本校通信制の学習方法を詳しく知ることが目的である。与えた各資料の情報を総合して理解させることが課題である。
	主体的に問題解決方法を見つけ、自己表現する重要性を理解している。	―	―	総探科目履修により、主体的に取り組むことができるようになる反面、少なからず年度途中で履修停止になる生徒がいることが課題である。

「授業アンケート」高評価数値の推移（%：小数点第1位まで）	R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた　①強くそう思う，②そう思う	75.4%	81.3%
話し合い，討論，発表などの言語活動に取り組むことができた　①強くそう思う，②そう思う	－	－
他の人の話や発表に耳を傾けることができた　①強くそう思う，②そう思う	－	－
ノート等で授業の記録をすることができた　①強くそう思う，②そう思う	－	－
活用・探究など，学んだことを別の場面で使うようにすることができた　①強くそう思う，②そう思う	68.5%	78.5%
授業や単元の終わりに，目標を達成しているかを評価することができた　①強くそう思う，②そう思う	72.8%	77.9%
家庭学習（宿題や課題）と授業を，有機的に結び付けることができた　①強くそう思う，②そう思う	84.3%	85.6%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた　①強くそう思う，②そう思う	64.2%	71.3%

保護者アンケート結果（学力に係わるもの）

中学校や前籍校時に不登校傾向の生徒の保護者からみれば、通信制であっても確かな学習成果をあげられていることに対しておおむね高評価である。以下回答例：「レポートの返却に先生からの評価メッセージが書いてあることがあります。本人の励みになると思うので有り難いと感じています。またレポートがまだ提出されていないという通知がくることがあり、きめ細かいフォローに感謝しております。本当にありがとうございます。」
「生徒に対してとても良く接していただいていると思います、ありがとうございます。」

授業アンケート等を踏まえた総合評価（学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む）

通信制課程では面接指導（スクーリング）への出席が毎回必須ではないため、上記「授業アンケート」の2～4項目である「話し合い，討論，発表などの言語活動」「他の人の話や発表への傾聴」「ノート等への記録」を共通に評価させることは難しい。しなしながらその他の項目において中間評価より年度末評価の方が数値が高くなっている教科が多く、通信制においても生徒は1年間のなかで学習状況が改善・深化されている様子が伺える。
課題としては、個人差の激しい生徒の学習状態をより丁寧に把握する方法を模索する必要性が挙げられる。

Active School Kai Project　令和6年度プロジェクト計画書（報告書）

学校番号	34	学校名	中央高校（通）		
全・定・通	通	学年	2	在籍生徒数	49　名

教育目標 （学力に関するもの）	自らを尊び、社会性を育み、社会的・職業的自立をめざす （Choハーモニックプラン）
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	・学ぶ楽しさ、わかる喜びを知り、自らの生き方や在り方を問い続ける ・社会性を身につけ、自立と自律を目指す ・自らを尊び、他者を尊び、地域を尊ぶ

各教科の取組

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	社会生活で用いる言葉に関する知識と情報の扱い方を身につけ、言葉を使って認識や思考ができる。	4.4	4.4	社会生活で用いる言葉に関する知識や情報の扱い方について、レポート課題では高評価であるが、定期試験や日常生活での定着については生徒による差が大きく、今後の課題である。
	社会生活の中で、他者と言葉を通して互いに考えを伝え合い、論理的に思考することで、共感したり想像することができる。	4.3	4.4	自らの考えを論理的に思考して伝えるレポート課題について、記述や発表の増加を負担に感じる生徒とそうでない生徒との差が開いており、その対応が難しく、今後の課題である。
	言葉を用いて考えたり伝えたりすることの必要性を認識するとともに、言語文化に親しむなどして、自らの国語力を向上させようとする。	4.4	4.4	自らの国語力を向上させる必要性については生徒も認識しているが、読書や新聞を読むことにはなかなかつながっておらず、伝統的な言語文化（特に古文漢文）の学習を負担に感じる生徒とそうではない生徒との差が開いており、その対応が課題である。
地公	地理歴史や社会、思想等について、知識を持ち、資料を活用する技能を身につける。	4	4.2	レポートでは基本的な「知識・技能」を身に着けるための問題を提起したが、現在世界で起きている事象と関連付けて考えられるような授業を取り入れることが課題である。
	歴史、地理、社会等の問題について、自ら考え思考し表現することができる。	4	4.1	レポートの中に思考・判断・表現を求める内容を入れた成果が出ている面もある。次年度はさらに表現する力を養えるよう精選する。
	社会について興味関心を持ち、主体的に社会参加する意欲を高めることができる。	4	4.1	レポートやスクーリングにおいて主体的学習を求める内容を継続していきたい。また、国際社会の一員である意識を持てるような学習を意識するような課題を取り入れていきたい。
数学	数や式の性質や規則を理解して用いることができる。	4	3.7	基礎的な知識・技能について、教育課程や3観点別評価を意識してレポートを作成した成果が出ている。さらに取り組みを進めたい。
	公式やグラフ等の意味を理解し、問題の解法に活用することができる。	3.8	3.7	公式活用の判断・グラフの活用など、観点別評価を意識してレポートを作成した成果が出ている。さらに取り組みを進めたい。
	身につけた知識を活用して応用問題の解答を導くことができる。	4	3.7	難易度の高い問題や応用問題にも主体的に取り組むように意識してレポートを作成した成果が出ている。さらに取り組みを進めたい。
理科	自然の事物・現象に対する知識を持ち、ICT機器などさまざまな資料を活用できる。	4.1	4.1	レポートでの学習状況が良好でも、生徒の学習の取り組み方で、試験の成績にばらつきがみられたため、生徒への学習指導が課題である。
	実験・観察を立案し、自らの考えを表現でき、自然の事物・現象を科学的に探究できる。	4.2	4	限られたスクーリングの時間内では実験・観察を十分に行うことは困難だが、思考・判断・表現の方法を工夫し、評価に結び付けたい。
	自然の事物・現象に関心を持ち、日常生活で進んで活用することができる。	4.1	4.1	レポートや授業等で、主体的に学ぶ姿勢を評価する課題を出し、課題の取り組みに対する評価の方法について、継続的に検討していきたい。
英語	より多くの語彙・表現・文法等の知識技能の定着をさせようとする。	4	4.3	より多くの知識・技能に加え、更にレポートを工夫し、ALTとの時間を増やすなどした。次年度以降も継続することが課題である。
	目的・場面・状況に応じて、英文を的確に読み取ったり、読んだり聞いたりして得られた情報に基づき自分の考えや気持ちを表現することができる。	4.1	4.3	自分の考えや気持ちを表現させる内容を多くしたが、自己開示が苦手な通信制の生徒にとって英語で表現するのは難しい問題となってしまったと思われる。
	主体的に自分の考えを深め、英語で記述したり発表することができる。	3.9	3.9	ディベートのレッスンにおいては具体的に賛成と反対の立場で自分の気持ちを表現し深めるタスクがあり難易度が高くなってしまったと思われる。
芸術	芸術に関するより深い知識を得るとともに、鑑賞したり製作したりする技能を培う。	4.4	5	芸術の2年次履修は上位科目ではなく再履修である。前年度の反省を活かし、より深く知識や技能を高められるかが課題である。
	芸術について思考し、作品やその他によって表現したり発表したりすることができる。	4.6	5	作品提出時に、制作の意図や工夫した点を追記させるようにしたため、表現力は高まった。今後も更に改善していきたい。
	芸術への興味関心を高め、生涯を通じて芸術的活動を行っていける。	4.6	5	再履修が多いことから添削課題や作品課題の完成度が高く、アンケート結果が高評価となった。興味関心を継続させる指導が課題。
家庭	生活や産業について基礎的な知識を得て、関連する技術を身に付ける。	4.2	4.3	レポートに「知識・技能」の習得を目標とした問題を設定したが、学習への取り組みを通して、自身の生活に引き寄せてとらえるよう促していきたい。
	生活や産業の課題について、自ら考えて判断し解決する力を培う。	4.2	4.3	「発展的な課題（ホームプロジェクト）」への取り組みを通して、自身の生活状況の課題を把握し、改善していく意識をもてるような指導をしていきたい。
	生活の質の向上を図り、主体的協働的に家庭や地域社会とかかわる基礎を養う。	4.2	4.3	学習を通して自己理解を促すとともに、家族や他者、さらには社会との関りについても認識できるように、指導の工夫をしていきたい。
保体	各種目の基礎的、基本的な知識・技能を身につけることができる。	4.6	4.4	レポートやスクーリングで各種目の基礎的、基本的な知識・技能を問うようにしたので、それが反映するようになった。今後もさらに改善したい。
	球技で自己に適した「する、みる、支える、知る」など、生涯にわたって楽しむためのかかわり方ができる。	4.5	4.4	レポートやスクーリングで自己に適した球技に対し思考・判断・表現させたので、それが反映するようになった。今後もさらに改善したい。
	球技の学習に主体的に取り組み、健康・安全を確保して積極的に活動することができる。	4.3	4.4	レポートに主体的学習に取り組むための欄をつくったので、それが反映するようになった。今後もさらに改善したい。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報	情報処理の知識を身に付け、プログラミング等の技能を身に付ける。	4.2	4.3	情報処理の知識に関して、現行の教育課程を意識して授業改善を図った成果がでている。さらに改善していきたい。
	情報機器を活用し、プログラミング的発想で思考判断し表現できる。	4.3	4.2	情報機器を活用して思考・判断・表現するために、実際にPCに触れる時間を増やすことが課題である。
	情報社会でリテラシーを身に付け主体的に生きていくための意欲を高める。	4.4	4.2	情報社会を主体的に生きていけるよう授業改善を図った成果がでている。さらに改善していきたい。
商業	ビジネスに関する知識や計算等に関する技能を身に付ける。	4	4	本来は4年次において履修することが標準の科目である。単位制のため個別に事情のある生徒が少数受講しており、評価結果には偏重がある。少数でも個々に応じた指導が課題である。
	ビジネスや商業において主体的に思考し、表現することができる。	4	4	同上
	職業人としての人間性を育み、ビジネスに創造的に関わる基盤をつくる。	4	4	同上
総探	課題解決において必要な知識や技術を身につけている。	―	―	「step1～4」のキャリア教育を中心とした内容に編成し、成果が出ていると思われる。課題があれば次年度以降も再検討する。
	社会一般の情報を正しく整理分析し、思考・判断のもとに表現している。	―	―	「step2」は社会一般の仕事内容を詳しく知ることが目的である。膨大な資料の情報を総合して理解させることが課題である。
	主体的に問題解決方法を見つけ、自己表現を目指している。	―	―	総探科目履修により、主体的に取り組むことができるようになる反面、少なからず年度途中で履修停止になる生徒がいることが課題である。

「授業アンケート」高評価数値の推移（%：小数点第1位まで）	R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた　①強くそう思う，②そう思う	75.0%	83.1%
話し合い，討論，発表などの言語活動に取り組むことができた　①強くそう思う，②そう思う	－	－
他の人の話や発表に耳を傾けることができた　①強くそう思う，②そう思う	－	－
ノート等で授業の記録をすることができた　①強くそう思う，②そう思う	－	－
活用・探究など，学んだことを別の場面で使うようにすることができた　①強くそう思う，②そう思う	76.2%	83.5%
授業や単元の終わりに，目標を達成しているかを評価することができた　①強くそう思う，②そう思う	75.5%	83.5%
家庭学習（宿題や課題）と授業を，有機的に結び付けることができた　①強くそう思う，②そう思う	81.7%	86.9%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた　①強くそう思う，②そう思う	76.1%	82.1%

保護者アンケート結果（学力に係わるもの）

【全年次共通】
学校は、すべての教育活動において、生徒の一人一人を大切にする姿勢で指導に当たっている。(81.4%)
生徒は授業がわかりやすいと言っている(77.1%)
学校として、進路に関する指導方針がわかりやすく説明されている(74.3%)
生徒は学校が楽しいと感じ、生き生きと生活している(74.3%)　等、おおむね前年度より評価が高くなっている。

授業アンケート等を踏まえた総合評価（学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む）

通信制課程では面接指導（スクーリング）と添削指導（レポート）、試験（テスト）の評価が基本であるが、レポートと試験にそれぞれ3観点評価を導入し、比較することで生徒の学習状態の把握に役立てている。授業アンケートは中間評価より年度末評価の方が数値が高くなっている教科が多く、年度が進むごとにこの傾向は強くなっている。生徒も教員も学習状況を改善・深化している様子が伺える。

課題としては、未だ教科によっては3観点を混同させた評価も残っているため、現行の教育課程にふさわしい評価方法を検討し続けることが必要である。

Active School Kai Project　令和6年度プロジェクト計画書（報告書）

学校番号	34	学校名	中央高校（通）		
全・定・通	通	学年	3	在籍生徒数	98　名

教育目標 （学力に関するもの）	自らを尊び、社会性を育み、社会的・職業的自立をめざす （Choハーモニックプラン）
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	・学ぶ楽しさ、わかる喜びを知り、自らの生き方や在り方を問い続ける ・社会性を身につけ、自立と自律を目指す ・自らを尊び、他者を尊び、地域を尊ぶ

各教科の取組

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	高校在学中に学んだ言葉や文学に関する知識や技能が身に付き、社会的・職業的自立を目指すことができる。	4.2	4.3	言葉や文学に関する基本的な知識や技能は、レポート課題では身に付いていることがうかがえるが、定期試験や日常生活での定着については国語を得意とする生徒と苦手とする生徒による差が大きく、今後の課題である。
	言葉や文学を通して互いの思考を表現し合うことで、自らも他者も尊び、地域を尊ぶことができる。	4.3	4.4	国語の選択科目を学ぶ生徒については、論理的な思考力や幅広い表現力が身に付いてきている。また、地域研究を通して山梨の文学や方言について学び、地域を尊ぶ姿勢を育むことができており、今後も継続していきたい。
	主体的に言語文化に親しむなどして、自らの生き方や在り方を問い続けることができる。	4.3	4.5	自らの国語力を向上させる必要性については十分認識しているが、読書に親しんだり新聞を読んだりする時間は生徒による差が大きいのが現状であり、受け身ではなく主体的に言語文化に親しむことの重要性について今後も働きかけていきたい。
地公	高校在学中に学んだ社会の仕組や思想に関する知識や技能が身に付き、社会的・職業的自立を目指すことができる。	4.1	4.2	日常生活の中で自身に関わる現代の諸課題について、これまでに身に着けた知識や技能を生かせるように働きかけていくことが必要である。
	社会の仕組や思想を通して互いの思考を表現し合うことで、自らも他者も尊び、地域を尊ぶことができる。	4	4.2	現代社会を生きるものとして、自国や他国の体制や文化などを尊重して、協力し合う事の大切さに気づくよう導いていくことが必要である。
	主体的に社会の仕組や思想に親しむなどして、自らの生き方や在り方を問い続けることができる。	4	4.3	授業等で身に着けた基本的な知識に基づき、社会の一員として主体的に自らのあり方生き方について自覚を持てるように働きかけていくことが必要である。
数学	高校在学中に学んだ、計算や理論に関する知識や技能が身に付き、社会的・職業的自立を目指すことができる。	4	4.1	日常席活に活用する機会の多い四則演算や割合の計算などの基礎的な事項の到達度に、より焦点を絞った学習指導が必要である。
	計算や理論を通して互いの思考を表現し合うことで、自らも他者も尊び、地域を尊ぶことができる。	4.1	4.1	面接授業時数が限られる中、相互理解を深め自他尊重の精神を養うには、最低面接時数にこだわらずに出席するようになるよう働きかける必要がある。
	主体的に公式や法則性に親しむなどして、自らの生き方や在り方を問い続けることができる。	4.1	4.1	主体的に教科書の内容の発展的学習に挑戦し、さらには、それを生活の中にまで応用する力の育成のため、より精選された問題選択と面接授業が必要となる。
理科	高校在学中に学んだ、自然現象に関する知識や技能が身に付き、社会的・職業的自立を目指すことができる。	4.2	4.3	年次が進むにつれ、学習に向き合う姿勢や成績のばらつきが大きくなり、学習が中止となる生徒への支援が課題である。
	自然現象に対して互いの思考を表現し合うことで、自らも他者も尊び、地域を尊ぶことができる。	4.1	4.3	スクーリング外での、実験・観察をすすめるため、レポートにどのような課題を加えたらよいか、継続して検討する必要がある。
	主体的に身近な自然現象に親しむなどして、自らの生き方や在り方を問い続けることができる。	4.1	4.4	学習で得た知識を日常生活に生かすため、主体的に学ぶ姿勢を評価する課題を出し、それを日常生活にフィードバックできる環境を作り上げていく必要がある。
英語	高校在学中に学んだ、英語や異文化理解に関する知識や技能が身に付き、社会的・職業的自立を目指すことができる。	4.5	4.8	英語を通して学んだ異文化理解に関する知識を活かし、自分の考えを熟成させ、卒業後の将来について考える機会を持たせた。次年度以降も継続していきたい。
	英語や異文化理解を通して互いの思考を表現し合うことで、自らも他者も尊び、地域を尊ぶことができる。	4.5	4.8	英語学習を通し、他者の意見を受け入れながらも自分の意見の表現する方法を見つけることができた。次年度以降も継続していきたい。
	主体的に外国語や異文化に親しむなどして、自らの生き方や在り方を問い続けることができる。	4.5	4.8	授業で学んだことを活かし、教室外においても自ら英語を使う機会を増やし、また海外の動きを英語で理解しようとする姿勢が見られた。次年度以降も継続することが課題である。
芸術	高校在学中に学んだ、芸術に関する知識や技能が身に付き、社会的・職業的自立を目指すことができる。	3.8	3.8	高校の必履修として学ぶ意味を活かしたいが、通信制の音楽は演奏が難しく、美術は郵送できる紙作品程度しか制作できないのが課題。
	芸術を通して互いの思考を表現し合うことで、自らも他者も尊び、地域を尊ぶことができる。	3.4	4.2	提出された作品を公開展示する機会を設け、生徒がお互いの作品を参考にするようになった。更なる表現方法の工夫に繋げることが課題。
	主体的に芸術に親しむなどして、自らの生き方や在り方を問い続けることができる。	3.8	4	中間評価より年度末評価の方が高くなるのは、年度途中で修得不可になった生徒がアンケートに回答しなくなるためでもある。修得者を増やすことが課題である。
家庭	高校在学中に学んだ、衣食住に関する知識や技能が身に付き、社会的・職業的自立を目指すことができる。	4.2	4.3	年次が進んで生活経験を積む中で、学習した事柄を生徒自身や家族の生活に反映していくように促す必要がある。
	衣食住を通して互いの思考を表現し合うことで、自らも他者も尊び、地域を尊ぶことができる。	4.1	4.2	ライフスタイルの多様性を認識することを通して、自己理解を深めさせるとともに、他者や社会をどのように受け止めて対応していくのかについて考えさせる必要がある。
	主体的に身近な衣食住を探究するなどして、自らの生き方や在り方を問い続けることができる。	4.1	4.2	自立した生活を送るために、どのような知識や技術を身に付けていくことが必要なのか、考えさせる必要がある。
保体	高校在学中に学んだ保健や体育に関する知識や技能が身に付き、社会的・職業的自立を目指すことができる。	4.7	4.5	体育や保健の中で基礎的・基本的な知識、技能を問い、生涯体育、健康について考えさせ、意識づけできるようにしたい。今後も内容を検討する必要がある。
	保健や体育を通して互いの思考を表現し合うことで、自らも他者も尊び、地域を尊ぶことができる。	4.7	4.5	体育を通して集団で活動することも考えさせ、個の大切さや集団での活動の大切さを考えさせるようにしたい。今後も内容の検討をする必要がある。
	主体的に健康や安全の増進に取り組むなどして、自らの生き方や在り方を問い続けることができる。	4.7	4.5	自主的にスポーツに取り組んだり、健康な生活を送るための活動を考えさせるようにしたい。今後も継続、改善できるように内容の検討が必要である。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報	高校在学中に学んだ、情報管理に関する知識や技能が身に付き、社会的・職業的自立を目指すことができる。	4.1	4.1	本来は2年次において履修することが標準の科目である。単位制のため個別に事情のある生徒が少数受講しており、評価結果には偏重がある。少数でも個々に応じた指導が課題である。
	情報の収受と発信により互いの思考を表現し合うことで、自らも他者も尊び、地域を尊ぶことができる。	4	4	同上
	主体的に情報の収受・発信に取り組むなどして、自らの生き方や在り方を問い続けることができる。	4	4	同上
商業	高校在学中に学んだ、商業科目に関する知識や技能が身に付き、社会的・職業的自立を目指すことができる。	4.3	4.9	知識や計算技能の評価を意識してレポートを作成した成果が出ている。今後も改善に取り組みたい。
	ビジネスに関わる互いの思考を表現し合うことで、自らも他者も尊び、地域を尊ぶことができる。	4.3	4.9	商業科目（簿記）において主体的な思考や表現の評価を意識してレポートを作成した成果が出ている。今後も改善にに取り組みたい。
	主体的に商業科目に親しむなどして、自らの生き方や在り方を問い続けることができる。	4.3	4.9	職業人としての人間性への評価を意識してレポートを作成した成果が出ている。今後も改善に取り組みたい。
総探	今後他の様々な課題解決にも必要な知識や技術を身につけていくことができる。	—	—	「step1～4」のキャリア教育を中心とした内容に編成し、成果が出ていると思われる。課題があれば次年度以降も再検討する。
	今後他の情報も正しく整理分析し、思考・判断のもとに表現し続けることができる。	—	—	「step3」は進路について、「step4」は自己表現の方法について考えることが目的で、卒業後の自分を意識させ続けることが課題である。
	今後も主体的に問題解決方法を見つけ、自己表現し続けることができる。	—	—	総探科目履修により、主体的に取り組むことができるようになる反面、少なからず年度途中で履修停止になる生徒がいることが課題である。

「授業アンケート」高評価数値の推移（%：小数点第1位まで）	R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた　①強くそう思う，②そう思う	82.0%	81.7%
話し合い，討論，発表などの言語活動に取り組むことができた　①強くそう思う，②そう思う	－	－
他の人の話や発表に耳を傾けることができた　①強くそう思う，②そう思う	－	－
ノート等で授業の記録をすることができた　①強くそう思う，②そう思う	－	－
活用・探究など，学んだことを別の場面で使うようにすることができた　①強くそう思う，②そう思う	75.4%	81.8%
授業や単元の終わりに，目標を達成しているかを評価することができた　①強くそう思う，②そう思う	74.1%	79.8%
家庭学習（宿題や課題）と授業を，有機的に結び付けることができた　①強くそう思う，②そう思う	87.3%	88.3%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた　①強くそう思う，②そう思う	70.7%	77.4%

保護者アンケート結果（学力に係わるもの）

【全年次共通】
学校は、すべての教育活動において、生徒の一人一人を大切にする姿勢で指導に当たっている。(81.4%)
生徒は授業がわかりやすいと言っている(77.1%)
学校として、進路に関する指導方針がわかりやすく説明されている(74.3%)
生徒は学校が楽しいと感じ、生き生きと生活している(74.3%)　等、おおむね前年度より評価が高くなっている。

授業アンケート等を踏まえた総合評価（学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む）

授業アンケートの結果については、学年制を敷く一般的な高校であれば、前年度の年度末評価の数値が今年度の中間評価の数値と同程度であることが期待されるが、履修・修得状況（＝生徒の学習状況）により毎年、年次変更が必要な本校の通信制課程においてはその限りではない。しかしながら全年次、ほぼ全教科において中間評価より年度末評価の方が数値が高くなっており、教育の効果、学習の成果は上がっていることが伺える。

引き続き個人差の激しい生徒の学習状態をより丁寧に把握する方法を模索し続けることが課題である。